

第4回東京多摩地区5国立大学法人公共工事入札監視委員会議事概要

開催日及び場所	平成28年11月1日(火) 東京農工大学本部管理棟(3階)第2会議室	
委員	委員長 林 静雄 (大学名誉教授) 委員 清水 至 (公認会計士) 委員 竹岡 八重子 (弁護士)	
審議対象期間	平成27年7月1日～平成28年6月30日	
抽出案件(合計)	6件	<p>(備考)</p> <p>今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。</p> <p>抽出案件の個別審議は、委員3名により審議を行った。</p> <p>その際、委員会資料「8-①～⑥. 5大学建設工事及び設計・コンサルティング業務抽出案件」の審議に基づき、各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。</p>
工事(小計)	5件	
一般競争入札 (政府調達に関する協定対象工事)	0件	
一般競争入札 (上記工事を除く)	5件	
工事希望型競争入札	0件	
通常指名競争入札	0件	
随意契約	0件	
設計・コンサルティング業務(小計)	1件	
簡易公募型プロポーザル方式(拡大)	1件	
標準型プロポーザル方式	0件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

意見・質問	回答
<p>1. 配付資料の説明並びに、委員長及び各委員紹介を委員会庶務担当の東京農工大学が行った。</p>	
<p>2. 建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議</p> <p>2-1) 一般競争入札方式 【講堂客席天井耐震補強工事：電気通信大学】</p> <p>入札者数が1者のみである理由は。</p> <p>事前に想定していた参加者数は。</p> <p>困難な工事現場であることから、参加者確保に向けてどのような取り組みをしたのか。</p> <p>天井工事の参加実績が1,800㎡の校舎又は研究施設の改修工事なのはなぜか。</p>	<p>入札を辞退した1者に理由を確認したところ、「競争参加資格確認の通知後、現地確認を行ったところ、天井裏という特殊な作業環境で当初の予定をはるかに上回る困難な作業であることが判明し、辞退した」との回答を得た。</p> <p>東京都内のC、D等級業者数は約460者。調布市内で4者。過去の改修工事入札での参加者は4～5者であり、同程度の参加者を見込んでいた。</p> <p>申請書類取得者等に対し、積極的に現場案内を働きかけた。</p> <p>面積については、文科省の方針に基づき対象建物の8割程度としている。</p> <p>今回の工事は作業環境は特殊だが、技術的には一般の天井改修工事であるため、改修工事の実績を求めることとした。</p> <p>また、学校の講堂に限定するのではなく、学</p>

意見・質問	回 答
<p>今回の建物の場合、参加実績を学校に限らず、自治体等のホール、会館等も含めてもよかったのでは。</p> <p>参加資格の地域要件を東京都以外に広げてもよかったのでは。</p> <p>2回目の入札から350万円以上下がった価格で契約しているが、そこまで下がった理由は。</p>	<p>校全般という意味で、校舎又は研究施設とした。</p> <p>今後は検討したい。</p> <p>参加資格の地域要件については、今年度から調布市に隣接する神奈川県も加えている。</p> <p>随意契約手続きに基づく相手方との交渉の中で、仮設材の搬入ルートを見直すことで、場内運搬に必要な人員の削減、4mの長い足場板の使用が可能になった。また長い足場板の使用が可能になったことにより近隣の他現場で使用していた足場板をそのまま転用できることになり、これらの結果価格を抑えることができた。</p>
<p>2-2) 一般競争入札方式</p> <p>【府中キャンパス外灯設備改修電気設備工事：東京外国語大学】</p> <p>全入札参加者（3者）の入札金額が低入札価格であったが、予定価格はどのように算定されたのか。</p> <p>予定価格の精度を上げるため、大学間での情報共有はできないのか。</p>	<p>昨年度の入札監視委員会でも同様の指摘を受けていたため、予定価格の算定精度を高める対策として設置器具の製造業者や施工業者からの情報収集に務めたが、実勢価格の把握は難しかった。</p> <p>大型の設備機器等では、他大学に実績の照会をかける場合がある。ただし、今回の外灯は特注であるため当てはまらなかった。</p> <p>また、外注設計業者に、設置器具の単価の調査を実施させ、参考としていたが、参加業者個別の算定内容まで事前に把握するのは困難であった。</p>

意見・質問	回 答
<p>昨年度の指摘を踏まえて対策を立て、実施していることは分かったが、本案件においても、全入札参加者が低入札であったことは、予定価格の算定に、更なる工夫が必要と考えられるので、今回の結果をしっかりと分析していただくことを望む。</p> <p>入札参加者の入札価格の内容内訳の比較検証は行っているのか。</p>	<p>積算の方法等が業者により異なるので、比較分析が難しい。</p>
<p>2-3) 一般競争入札方式 【附属特別支援学校プールサイド等改修工事：東京学芸大学】</p> <p>落札率 99%以上であるが、予定価格の算定方法は。</p> <p>落札業者から見積をとっているのか。</p> <p>落札業者は、貴学と同様の算定方式を実施しているのか。</p> <p>落札業者は、大学の算定方法を知っているのか。</p> <p>大学側の算定方法を熟知している参加業者がいる場合、公平性に疑問が出るが、一方、参加業者の積算方法が全く異なる場合、落札しないことが考えられる、この辺の兼ね合いをどのように考えているのか。</p>	<p>公共工事の積算基準に基づき、物価資料等や業者見積を使って積算している。</p> <p>見積は専門業者から徴収している。落札業者はゼネコンなので、徴収していない。</p> <p>下請け業者からの見積をもとに算定していると考えられる。本学は、物価資料等に掲載されていないものについて、見積を徴収している。</p> <p>本学の算定方法を認識していると思われる。</p> <p>物価資料に掲載されている単価の中には、見積よりも若干安価な物もある。今回の落札内訳を見ると、直接工事費は本学よりも高いが、共通費は本学よりも安くなっている。落札業者に確認したところ、過去の本学との入札を踏まえ、さらに共通費を圧縮して応札し</p>

意見・質問	回 答
<p>落札率 99%以上の案件は、頻繁に発生する のか。</p> <p>予定価格算定において、独自の掛け率等を使用するなど、常に一定の変化を伴う算定方法を工夫する必要があるのでは。</p> <p>1位と2位の業者の乖離が大きいがなぜか。</p>	<p>た結果、直接工事費の差額が相殺され、落札に至ったものと考えられる。</p> <p>本委員会対象期間では11件中2件。ただし、近年では高落札率になったものはなく、たまたまこの期間に発生した状況である。</p> <p>2位の業者とは、特に仮設工事費及び撤去工事費について、予定価格との開きがあった。通常、仮設工事費は安全のマーヅンを取るため予定価格より高めに出やすく、また、撤去費については、下請け業者の見積次第である。2位の業者は、これらについての金額の開きが大きかった。本学予定価格に対して、仮設費約4倍、撤去費約3倍であった。</p>
<p>2-4) 一般競争入札方式 【府中幸町団地農学部本館改修その他工事：東京農工大学】</p> <p>落札した業者は、何処の業者か。</p> <p>入札辞退した業者の辞退理由はなにか。</p> <p>第2位の業者の施工体制評価点が算定され</p>	<p>落札した長田組土木(株)は山梨県の業者。なお、新宿に支店がある。</p> <p>一般的には、配置予定技術者が他工事担当になったことによると考えられるが、開札時辞退だったことにより、本件は、直接確認はしていない。</p> <p>開札時、入札価格が予定価格を超過していた</p>

意見・質問	回 答
<p>ていないのは、何故か。</p> <p>落札業者による工事の結果の評価は。</p>	<p>ので、施工体制評価点を算定しなかった。</p> <p>非常に良好な施工により、工事成績は85点の評価をした。</p>
<p>2-5) 一般競争入札方式 【小平国際キャンパス安全対策機械設備工事：一橋大学】</p> <p>昨年度に引き続き、応札者が少ない案件が審議対象となっているが、応札者が少ないのは、何故か。</p> <p>1回目の公告は、いつか。</p> <p>本工事について、実施を学内で決定したのはいつか。</p> <p>工期が、年度末になっているが、理由は。</p> <p>昨年度審議案件も予算確保に時間がかかったため、工期が年度末までとなり、結果、1者入札となったが、本年度も同様か。学内手続きの迅速化が必要なのでは。</p> <p>大学全体の施設改修計画があれば、もう少し</p>	<p>本件は、再度公告したものであり、1度目の公告では、参加者が無く不調だった。その為、文部科学省とも相談し、再度公告では、配置予定技術者の専任条件を緩和し入札を実施した。本件は、再度公告等の事前手続きに時間を要し、施工者の繁忙期に入札や工期が重なったことが原因ではないかと思われる。</p> <p>10月26日。</p> <p>年度前半。財源は学内経費。</p> <p>8～9月に、目的積立金の残額により実施すると決めたため、工期が年度末までとなった。</p> <p>複数の事業の中から実施事業を選択するのに時間がかかった。また、本件は、工事範囲が広く、仕様書の策定に向けて現場確認等をするのにも、時間がかかった。</p> <p>既に、改修計画はある。</p>

意見・質問	回 答
<p>迅速に意思決定できるのでは。</p> <p>本件は、参加資格等も充分広げているので、実施時期が、1者入札の原因として考えられるが。</p> <p>配置予定技術者の専任を外したことによる問題は起きなかったか。</p>	<p>事業実施の決定時期を早める等の対策を考える必要がある。</p> <p>参加辞退理由には、配置予定技術者の配置が困難。或いは他の工事案件に参加のため等の理由があった。これは年末から年度末にかけて、他の公共事業等の発注案件増加傾向になることが原因の一つとして考えられる。</p> <p>特段問題はなかった。</p>
<p>2-6) 簡易公募型プロポーザル (拡大) 【附属図書館4階天井耐震改修設計業務:東京外国語大学】</p> <p>20回も見積もり合わせをするものなのか。</p> <p>技術審査の評価項目について、評価者に専門的な知見はあるのか。</p> <p>960万円から358万円へ下落の理由は。</p> <p>業務の結果の評価は。</p> <p>960万円の根拠をどう考える。</p> <p>参加者に対する審査員の評価に違いがある場合の評価は。</p>	<p>1位の者に続ける意思があるかぎり、継続する。止めても、次順位の者が落札する保証はない。</p> <p>3名とも建築を専門としている。</p> <p>下落理由について、ヒアリングをしていない。金額提示のみの交渉。</p> <p>問題なし。</p> <p>一般的に改修設計は手間がかかるので、高めに積算するのではないか。</p> <p>第1回目の建設コンサルタント選定委員会にて、各委員の各参加者に対する評価点の合</p>

意見・質問	回 答
	計点が一番高い参加者を選定することとした。

講評

特に指摘事項等はありません。適正な入札手続きが取られていると考えます。

今回の委員会の感想は以下のとおりです。1者入札は減少している。現状分析も丁寧に実施されている。価格交渉も適正に進められている。結果に対する説明ができる様な手続き、方法をとること及び結果の分析を続けてほしい。